

# 経済・金融 フラッシュ

## 12月マネー統計

～貸出は底入れ感が鮮明に、紙幣残高は過去最高に

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

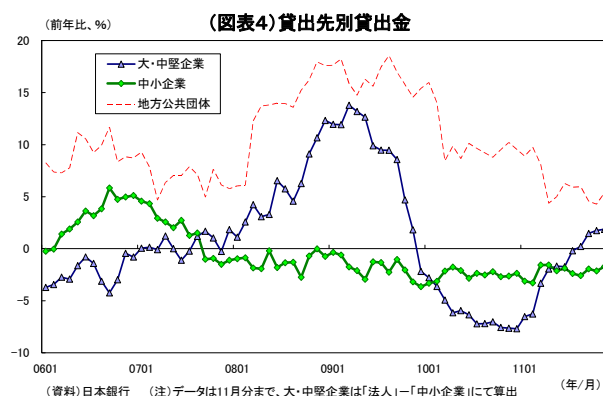
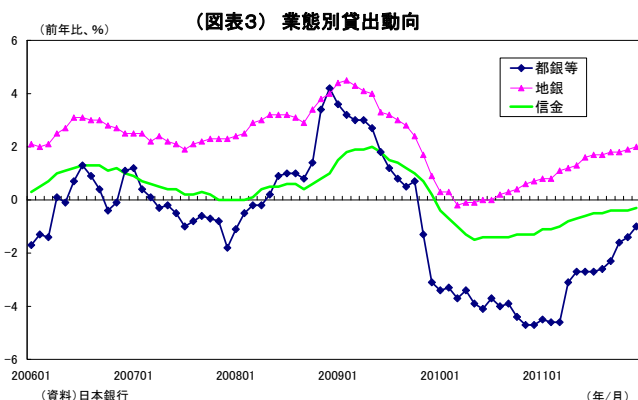
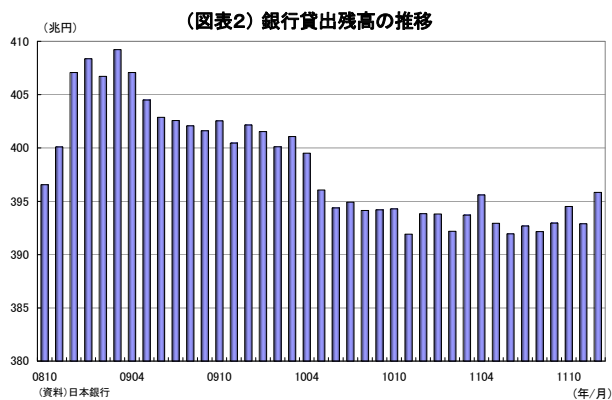
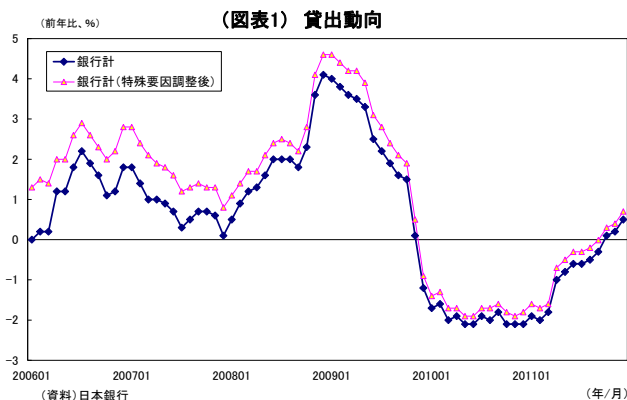
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

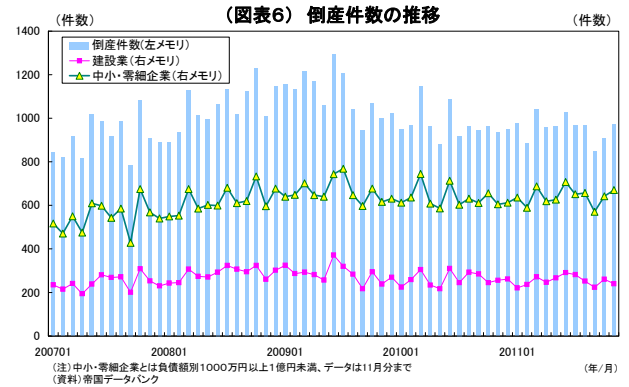
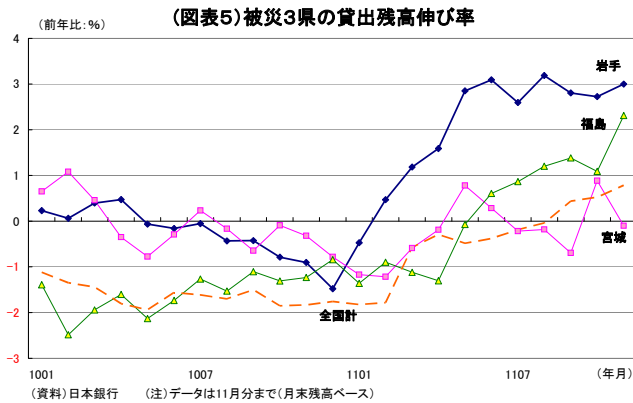
### 1. 貸出動向：前年比 0.5%増

日銀が発表した12月の貸出・資金吸収動向等によると、銀行総貸出(平残)の前年比伸び率は0.5%と前月の0.2%からプラス幅を拡大し、底入れ感が鮮明になってきている。前年比プラスは3ヶ月連続となる。

内訳では、地銀が前年比 2.0%増(前月は 1.9%増)、都銀等が同▲1.0%減(前月は▲1.4%減)と引き続き地銀が優勢だが、都銀等のマイナス幅縮小も顕著になっている。貸出先別(11月まで)で見ると、中小企業ではマイナスが続いているが、社債発行が困難となっている電力会社向け貸出増加などから大企業向けがプラス幅を拡大している(図表1～5)。

先行きについては、復興需要が貸出残高の増加要因として見込まれる一方、欧州危機や新興国経済減速等に伴う企業の設備投資マインド悪化が懸念材料となる。





### (その他の注目点)

11 月末の被災 3 県(岩手、宮城、福島)の貸出金は合計で前年比 1.2%増と引き続き全国平均(0.8%増)を上回ったが、前月(前年比 1.3%増)からは若干伸び率が縮小した。岩手と福島が前年比各 3.0%増、2.3%増と増加した一方、宮城が▲0.1%と減少した。金額ベースでの増加額も前年比 1168 億円(前月は同 1259 億円)に留まっている。復興に伴う資金需要本格化にはもうしばらく時間がかかりそうだ(図表5)。

金融庁は12月下旬に今年3月末期限となっていた「中小企業金融円滑化法」の1年間の延長を発表した。同法は中小企業等から返済猶予などの条件変更の要請に応じる努力義務を金融機関に課すもので09年12月に施行され、既に一年延長されていた。近年、倒産件数は落ち着いており、同法の寄与が大きいと考えられるが、一方で潜在的な不良債権化を懸念する声も多い(図表6)。

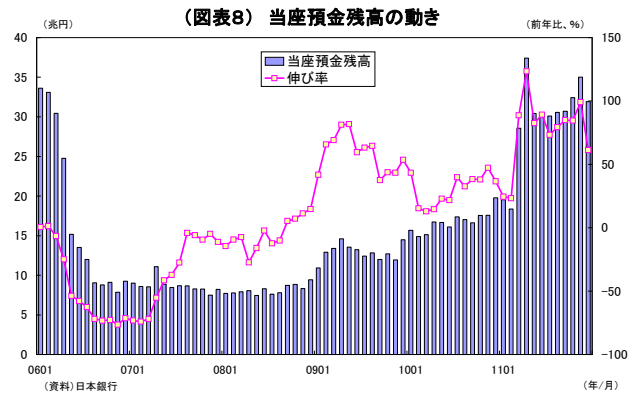
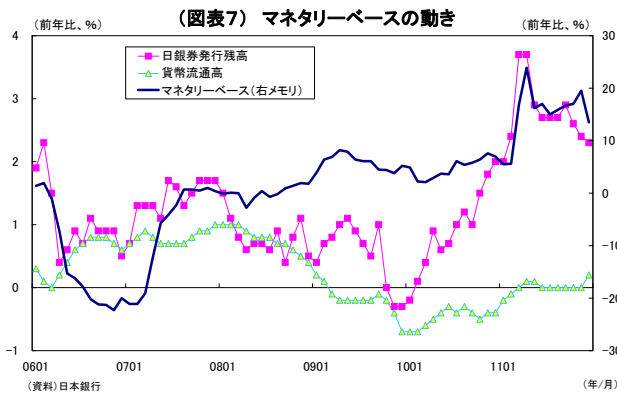
自見金融相は「今回に限り一年間延長する」との考えを明らかにしている。今年一年間でどれだけ持ち直せるかが以降の倒産、不良債権の動向に大きな影響を与えることとなる。

## 2. マネタリーベース：紙幣の発行残高が過去最高に

日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示す12月のマネタリーベース(平残)伸び率は前年比13.5%と、為替介入資金が放出され伸び率が高まった前月(19.5%)から縮小した。とはいえ、残高は118.0兆円と過去3番目の高水準を維持している。内訳では、日銀当座預金が前年比61.3%増と大きく寄与している。(図表7,8)。

現状、欧州情勢などに伴う景気の下振れリスクは大きく、日銀は景気の下支えと金融機能安定化のため、今後とも高水準の資金供給を継続するだろう。

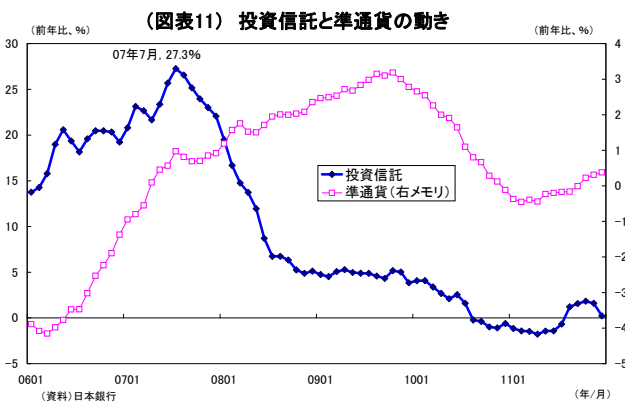
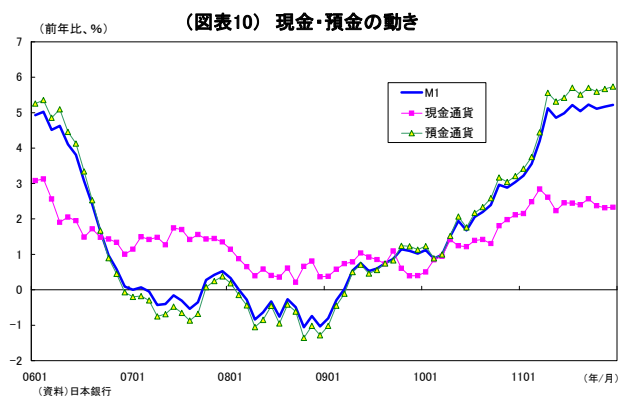
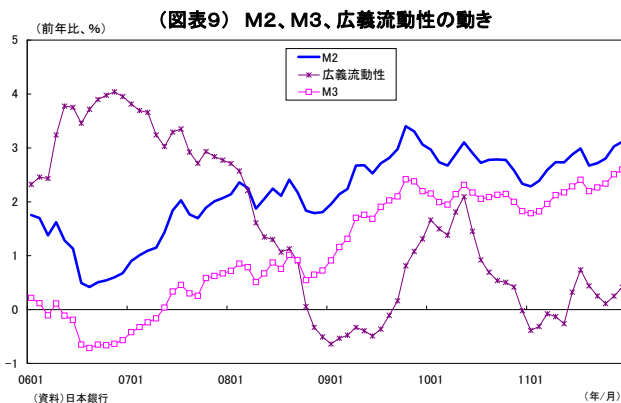
なお、今回初めて日銀券発行残高が81.6兆円と80兆円の大台を突破した。現金需要が高まる年末という季節要因もあるが、震災に伴う現金志向の高まりや金融緩和等に伴う預金金利の低下が背景にあると考えられる。



### 3. マネーストック：M2、M3は過去最高に

通貨供給量の代表的指標である12月のM2（現金、国内銀行などの預金）平均残高は前年比3.1%増（前月は3.0%増）、M3（M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む）は同2.6%増（前月は2.5%増）と、ともに伸び率がやや上昇した。M3に投信や外債などを含めた広義流動性も同0.4%増（前月改定値は0.3%増）とやや上昇した。

M2とM3の伸び率は統計開始以来の最高値となった。とりわけ普通預金など預金通貨では震災後の4月以降5%台の高い伸びが続いている。一方でリスク資産を含む広義流動性の伸び率は低迷しており、全体としてリスク回避色が強い状況が継続している（図表9～11）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。